シンクイムシ類

発生生態

ナシヒメシンクイ

モモ、リンゴ、ナシ、ウメ、スモモなどの果実、新梢を加害する。成虫(写真 1)は通常葉に産卵する。ふ化幼虫は初め新梢を加害するため、新梢の先が急にしおれ、枯れてしまう。これを芯折れと呼ぶ(写真 2、3)。第2世代幼虫以降は果実も加害する(写真 4)。



写真1 ナシヒメシンクイ成虫



写真2 モモ芯折れ



写真3 新梢中の幼虫



写真4 モモ被害果

モモシンクイガ

リンゴ、モモ、ナシ、アンズ、ウメ、スモモなどの果実だけを加害する。果実に産卵する。ふ化幼虫(写真 5)はただちに果肉内に食入し、果肉内を縦横食い荒らす(写真 7、8)。本県での成虫(写真 6)の羽化は、6 月下~7 月上旬頃、7 月下旬頃、8 月下旬頃 の 3 つのピークが見られる。



写真5 モモシンクイガ幼虫



写真6 モモシンクイガ成虫

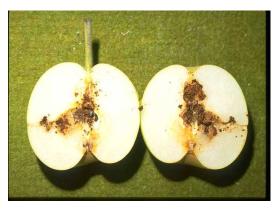


写真7 リンゴ被害果



写真8 リンゴ被害果

モモノゴマダラノメイガ

モモ、リンゴ、ナシなどの果実を食害する。成虫(写真9)は、夜間に卵を枝や果実の 表面に産卵する。ふ化幼虫は果こう部付近から食入し、成長してくると外部に粒状の糞を 大量に排出する (写真10)。



写真9 モモノゴマダラノメイガ成虫 写真10 モモ被害果



防除のポイント

- ・ナシヒメシンクイ、モモシンクイガは、複合交信かく乱剤を処理することで、合成性フ エロモンを園内に充満させて交信をかく乱し、交尾を阻害し、次世代の密度を低下させ る。
- ・芯折れ被害や被害果は、見つけ次第摘除し、5日間以上水に浸すか、土中に深く埋める。
- ・幼虫の越冬しやすい場所の粗皮を削り落とす。

参考文献

(1) ひと目でわかる果樹の病害虫-第三巻-/社団法人 日本植物防疫協会

写真提供

(1)福島県農業総合センター果樹研究所